

適正規模・適正配置アンケート結果

◇ 適正規模・適正配置に関する意見調査の実施

○目的

望ましい学習環境づくりのために「学校どうしを統合したり新たな学校の設置を行ったりするなどの対策を考える必要性の有無」について現時点での保護者、地域住民の考え方を把握すること

○調査の対象者

小・中学校の保護者、就学前の子どもの保護者及び地域住民

○調査の方法及び回収方法

中学校区ごとの説明会で配付・回収、各小・中学校で保護者に配付・回収、市役所本庁舎・総合支所・各公民館にアンケート用紙を設置し、回収

○回収状況

1,193名の方から回答（就学前保護者 173名、小学生のみ保護者 407名、中学生のみ保護者 146名、就学前・小・中に渡り2人以上の子どもを持つ保護者 403名、保護者以外住民 64名）

○調査の実施期間

9月25日から10月27日の1ヶ月間実施

1 アンケート結果のまとめ

(1) 全体的な傾向

小学校については、対策を考える「必要がある」、中学校については、「必要ない」が多く、小・中学校ともに「分からない」という回答も多い

(2) 中学校区ごと

- 第一中学校区、第二中学校区、第三中学校区、塩川中学校区では、小学校について対策の「必要がある」が多く、中学校については「必要がない」が多い。
- 会北中学校区、山都中学校区、高郷中学校区では、小・中学校ともに対策の「必要がある」が多い。

(3) 回答者別

- 小・中学校の保護者は、小学校について対策の「必要がある」が多く、中学校については「必要がない」が多い。
- 就学前の子どもを持つ保護者は、小学校については対策の「必要がある」が多く、中学校については、「必要がある」「必要がない」がほぼ同じ。小・中学校ともに「分からない」という回答が多い。
- 保護者以外の地域住民は、小・中学校ともに、対策の「必要がある」が多く、特に小学校については非常に多い。

(4) 自由記述の代表的な意見

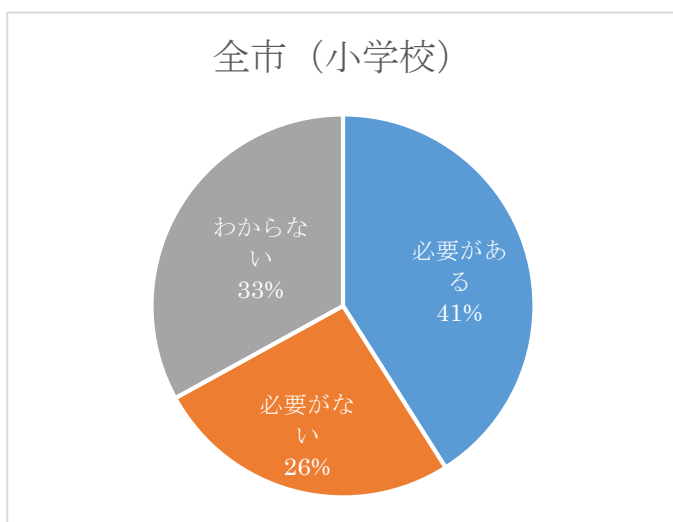
- 学校活動はやはりある程度の人数が集まる必要がある
- 少人数の学校は部活動の選択肢が少ない。
- 学校が地域にあるということは、地域力につながる。
- 少人数だと先生の目が行き届き、1人1人接することで充実

2 「平成 29 年度適正規模・適正配置アンケート」【選択項目】毎の回答分析

(1) 全体的な傾向：小学校については、対策を考える「必要がある」、中学校については、「必要がない」が多く、小・中学校ともに「分からない」という回答も多い

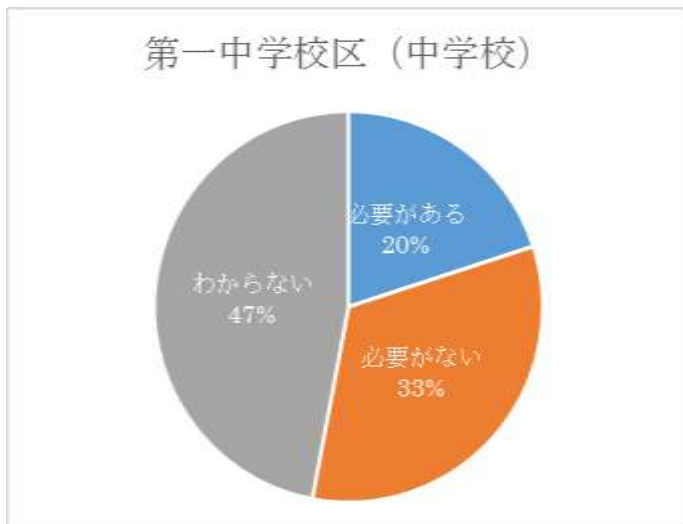
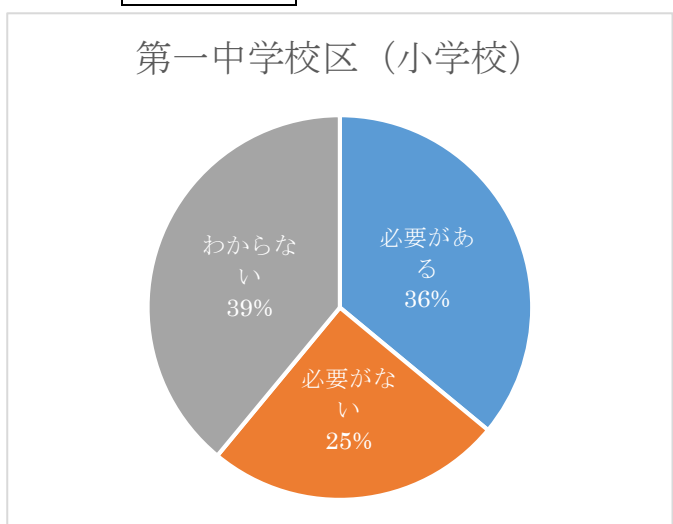
全体としては、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校で41%、中学校で24%、「必要がない」とする回答は小学校が26%、中学校が34%となっており、中学校より小学校でより対策を考える必要があるとする回答が多かった。また、小学校については33%、中学校については42%が「分からない」と回答している。

これは市域全体の傾向であり、地域（7つの中学校区）によって、それぞれ特徴ある結果が得られている。（以下の地域別傾向参照）



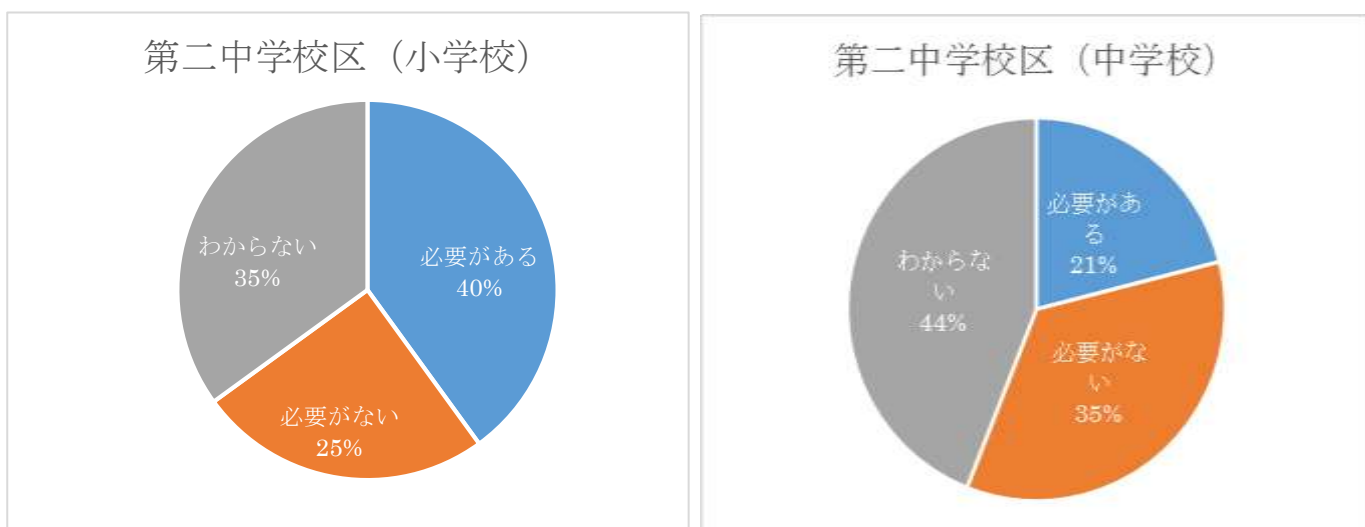
(2) 中学校区別（地域別）の特徴や傾向

① **第一中学校区**：小学校では対策の「必要がある」が多く、中学校では「必要がない」が多い



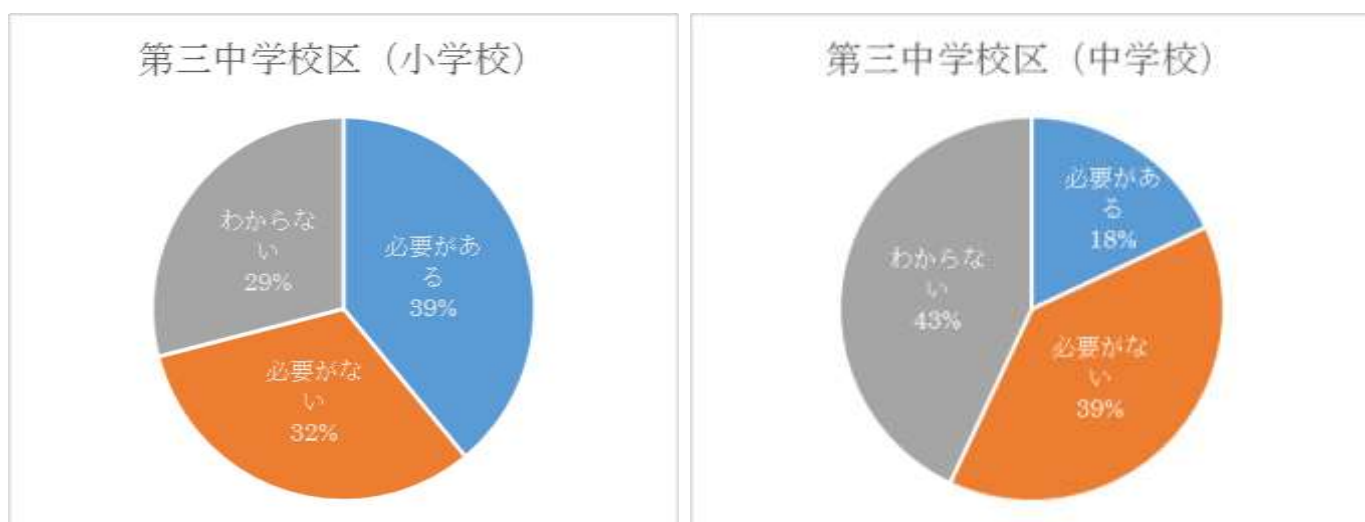
第一中学校区では、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校で36%、中学校で20%、「必要がない」は小学校が25%、中学校が33%となっており、中学校より小学校で対策を考える必要があるとする回答が多いものの、全体的には必要の割合は低い。

② **第二中学校区**：小学校では対策の「必要がある」が多く、中学校では「必要がない」が多い



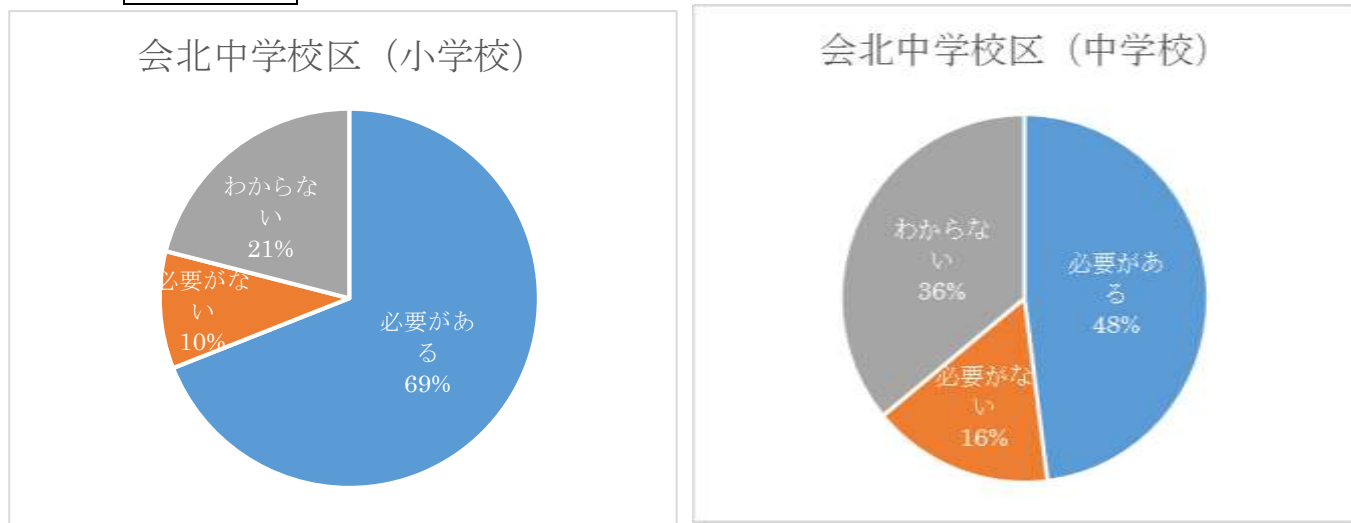
第二中学校区では、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校で40%、中学校で21%、「必要がない」は小学校が25%、中学校が35%となっており、中学校より小学校で対策を考える必要があるとする回答が多い。ほぼ市全体の数値となっている。

③ **第三中学校区**：小学校は「必要がある」がやや多く、中学校は「必要がない」が多い



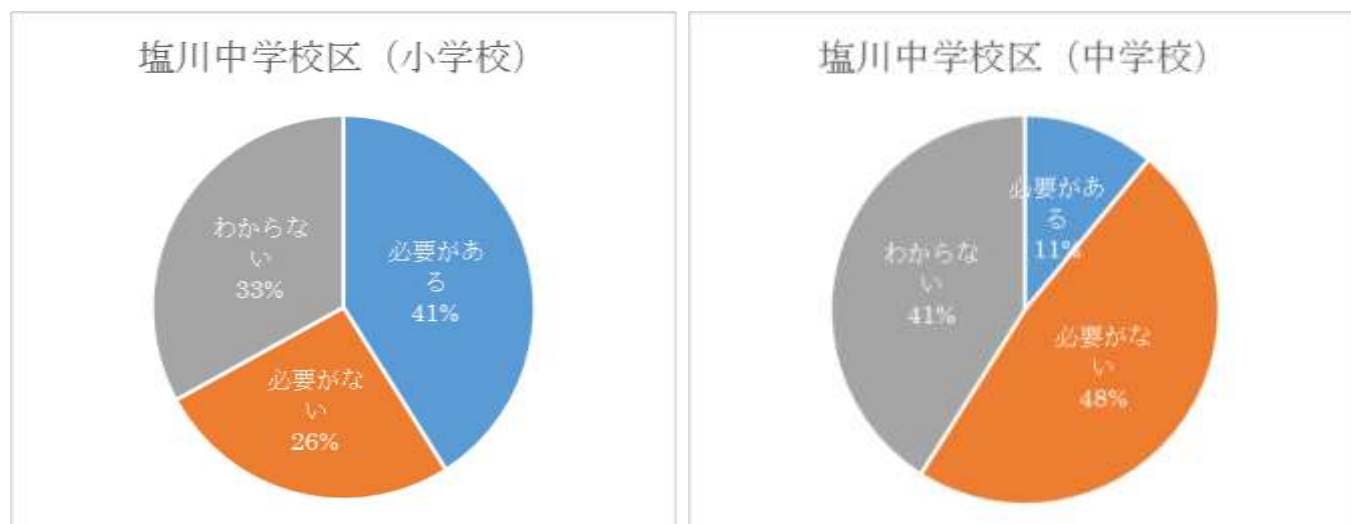
第三中学校区では、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校で39%、中学校で18%、「必要がない」は小学校が32%、中学校が39%となっており、中学校より小学校で対策を考える必要ありとする回答が多く、中学校で必要なしと考える割合が高い。

④ **会北中学校区**：小・中学校とも対策の「必要がある」が多く、特に小学校は多い



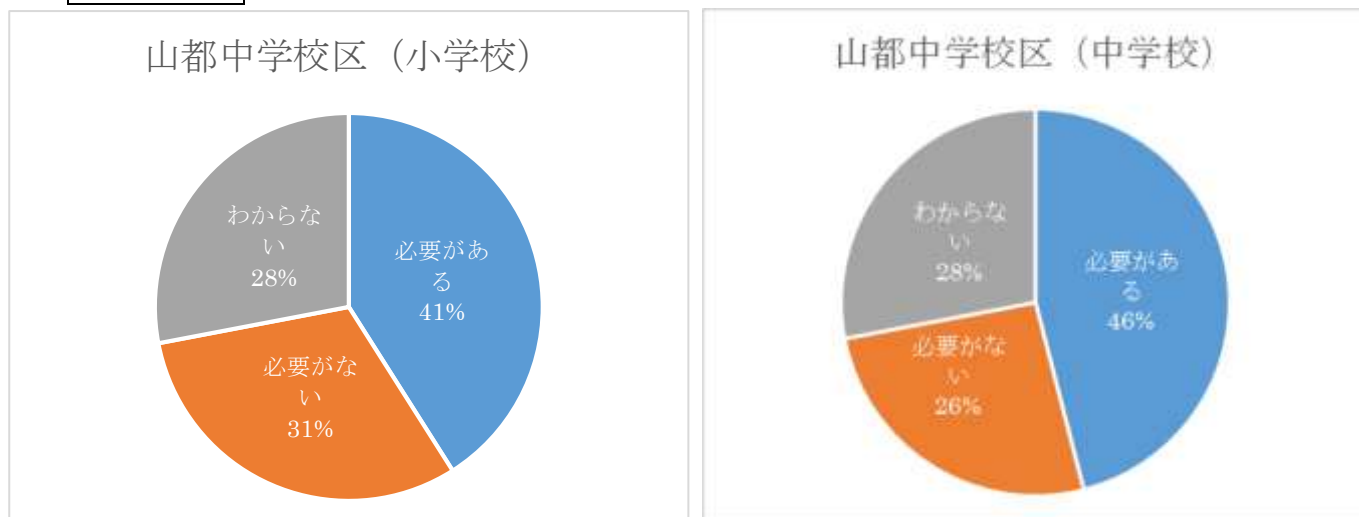
会北中学校区では、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校で69%と7校区内で最も高く、中学校も48%と2番目に高い。「必要がない」では小学校が10%、中学校が16%と、7校区内最少であり、小・中とも対策の必要性への想いが強い。

⑤ **塩川中学校区**：小学校は対策の「必要がある」が多く、中学校は「必要がない」が多い



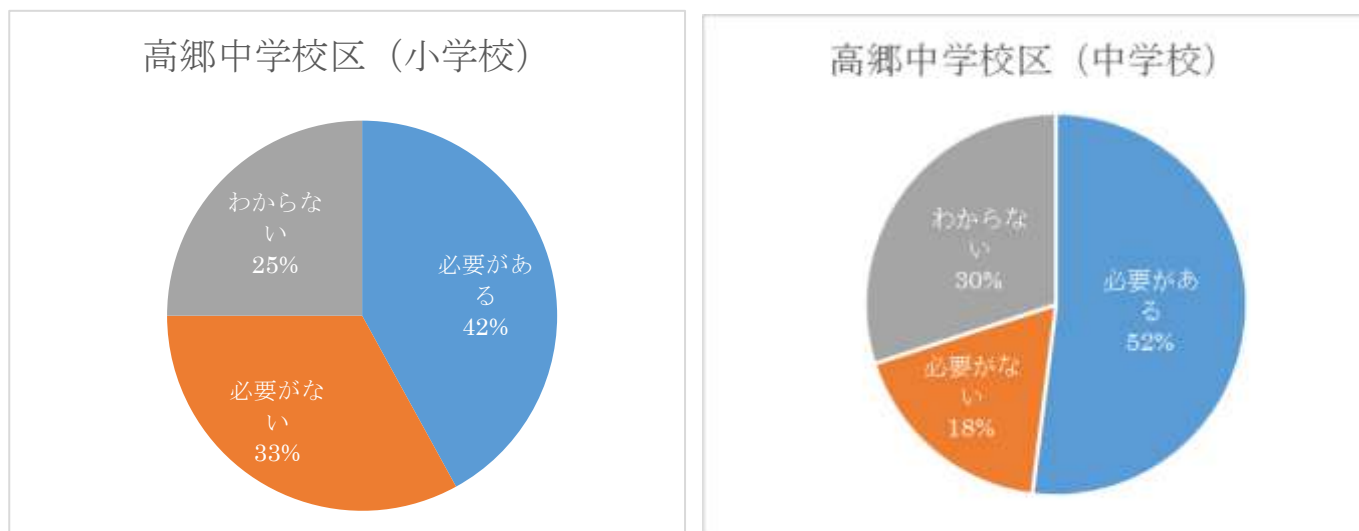
塩川中学校区では、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校が41%で全体の回答割合と同程度だが、中学校が11%で7校区内最少である。また「必要がない」は小学校が26%と全体の回答割合と同程度だが、中学校が48%と7校区内で最も高く、中学校の現状維持を望んでいる割合が高い。

⑥ **山都中学校区**：小・中学校ともに対策の「必要がある」が多く、特に中学校は多い



山都中学校区では、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校が41%で全体の回答割合と同程度だが、中学校が46%と3番目に高い。また「必要がない」は小学校が31%と全体の回答割合を上回り、賛否両論に分かれている。中学校では26%と全体の回答割合を大きく下回り、中学校の改善を望む割合が高い。

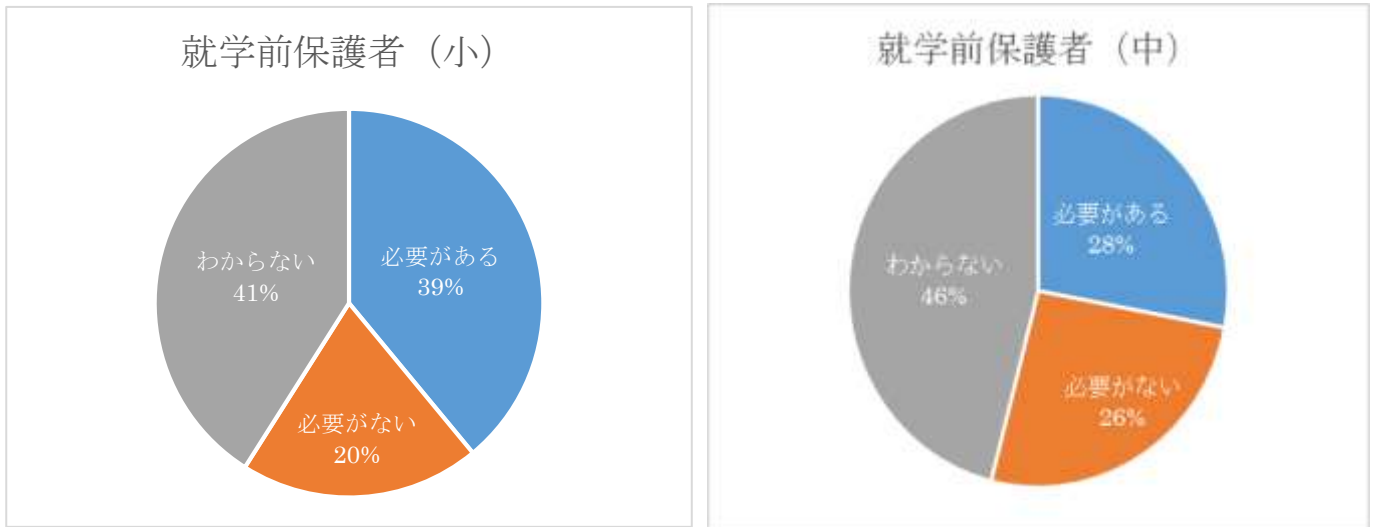
⑦ **高郷中学校区**：小・中学校ともに対策の「必要がある」が多く、特に中学校は多い



高郷中学校区では、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校が42%で全体の回答割合と同程度だが、中学校が52%と7校区で最も高い。また「必要がない」は小学校が33%と7校区で最も高いものの、中学校は18%と会北中学校区に次いで2番目に低い。中学校の改善を求める割合が高い。

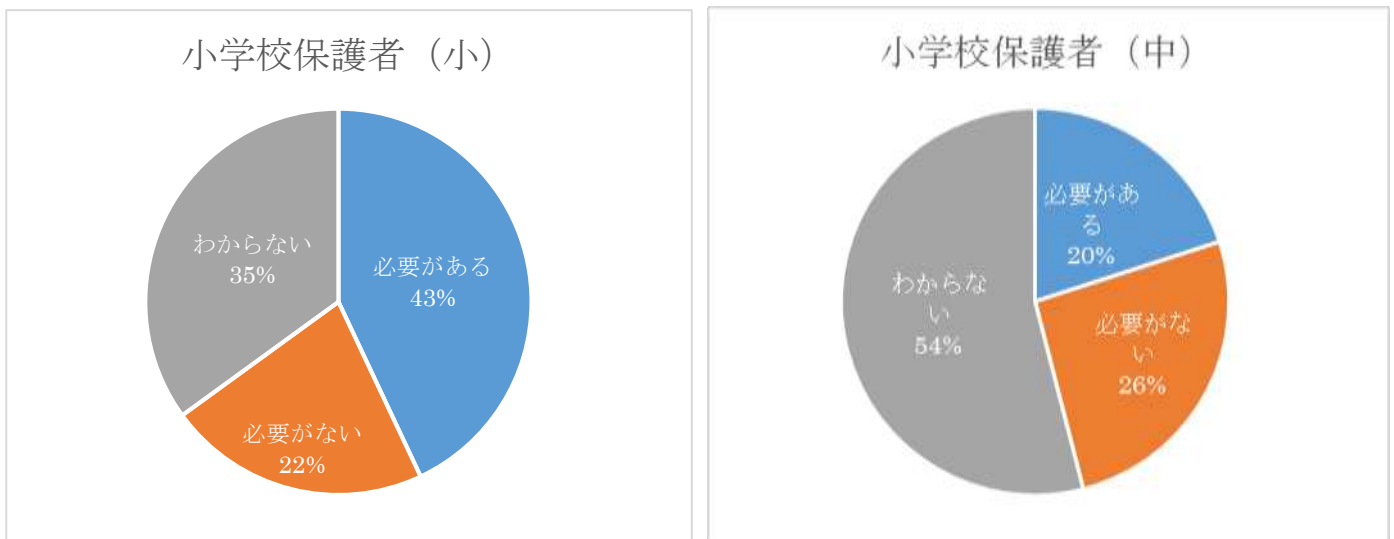
(3) 回答者別の特徴や傾向

- ① **就学前の子どものみを持つ保護者**：小学校については、対策の「必要がある」が多く、中学校については、ほぼ同じだが、「分からない」が多い



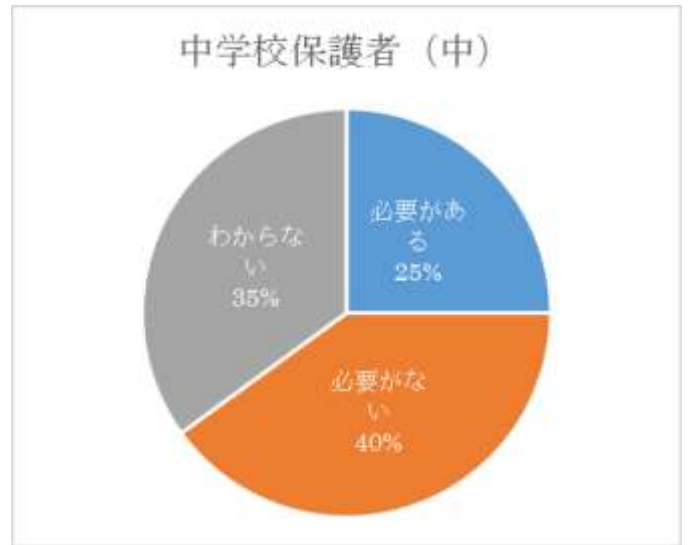
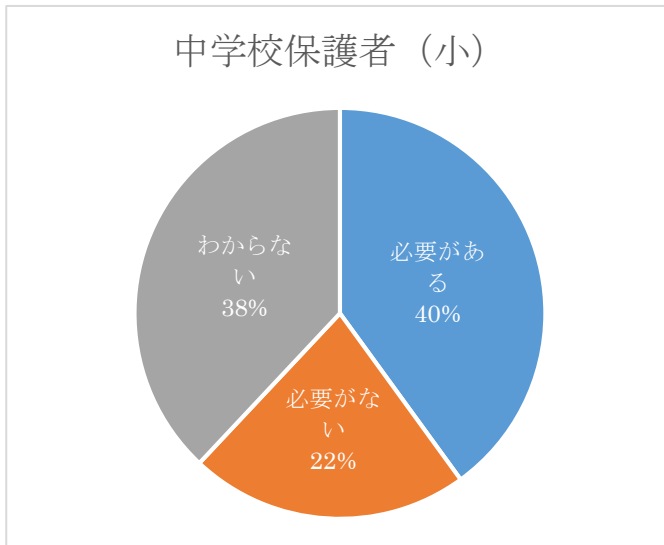
就学前の子どものみを持つ保護者は、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校が39%で全体の回答割合をやや下回るが、中学校が28%と上回る。また、「必要がない」は小学校が20%と5回答者別の中で最も低く、中学校も同様に26%と最も低い。「分からない」の回答が小学校について最も高く、中学校についても小学校保護者に次いで2番目に高い。

- ② **小学校の子どものみを持つ保護者**：小学校については、対策の「必要がある」が多く、中学校については、「必要がない」が多いものの、「分からない」が多い



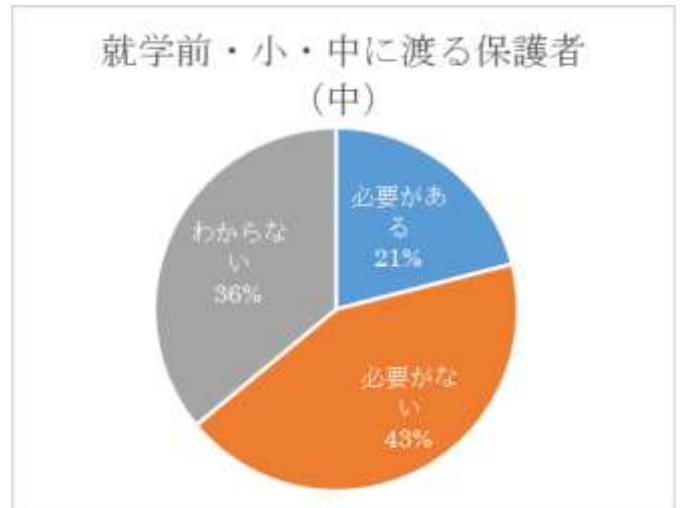
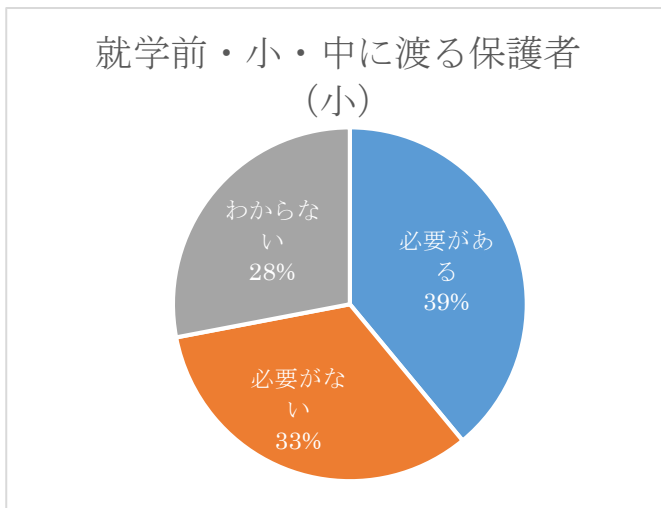
小学校保護者は、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校が43%で全体の回答割合をやや上回り、中学校が20%と下回る。また、「必要がない」は小学校が22%と全体の回答割合を下回り、中学校は26%と大きく下回っている。中学校については「分からない」の回答が5回答者別の中で最も高い。

- ③ **中学校の子どものみを持つ保護者**：小学校については対策の「必要がある」が多く、中学校については、対策の「必要がない」が多い



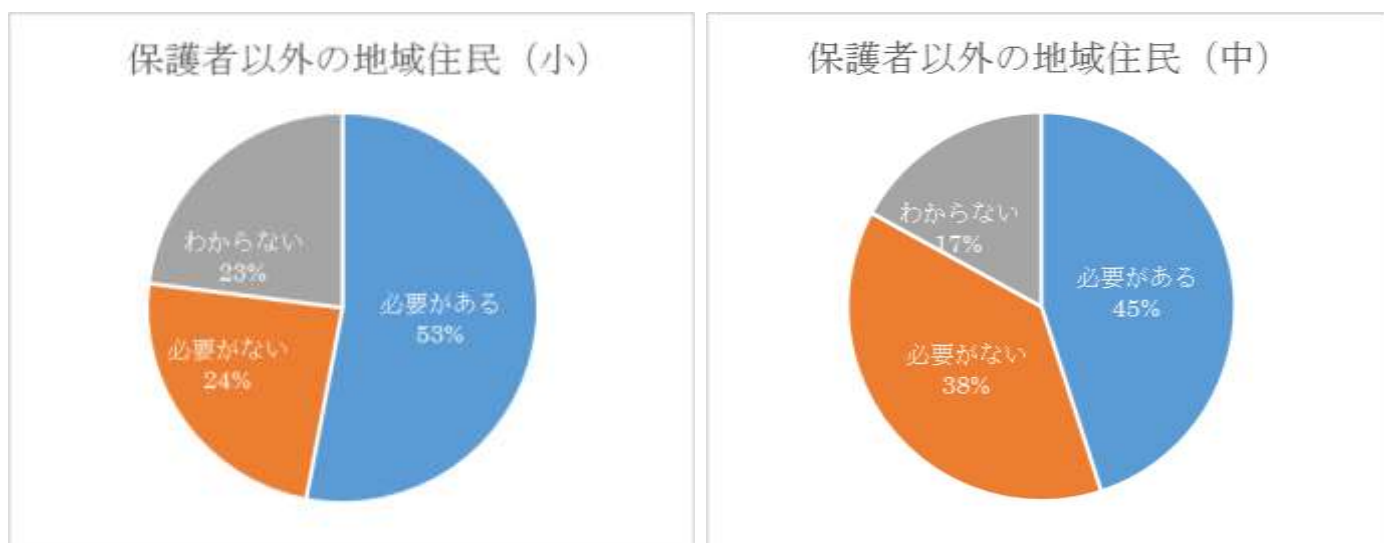
中学校保護者は、対策を考える「必要がある」とする回答は、小学校が40%で全体の回答割合をやや上回り、中学校が25%で全体とほぼ同じ。また、「必要がない」は小学校が22%で全体の回答割合を下回り、中学校は40%で上回っている。

- ④ **①②③に渡り2人以上の子どもを持つ保護者**：小学校については対策の「必要がある」がやや多く、中学校については、対策の「必要がない」がたいへん多い



小学校については、「必要がある」が「必要がない」を上回っているが、中学校については、「必要がない」が「必要がある」の2倍以上の割合となっている。

- ⑤ **保護者以外の地域住民**：小中学校ともに、対策の「必要がある」が多く、特に小学校については非常に多い



保護者以外の地域住民は、「必要あり」の回答が小学校53%、中学校45%と、ともに全体の回答割合を大きく上回り、5回答者別の中で最も高い。対策の「必要がない」とする回答は、小・中学校ともに、全体の回答割合とほぼ同じ結果となっている。

2 「自由記述（全379件）」で特に特徴的な意見

(1) 対策の「必要がある」とする主な意見

① そもそも小規模校、小集団であることへの心配や懸念

【特徴的な意見】 1学年が15名位～以下だと、体育や男女別で行う勉強などの時、困る時があると思うので、やはり人数はある程度集まった方が利点が多くなると思う。中学校で部活の種類に差が出てかわいそう。選択が少ない学校の生徒は、好きな部活が選択できず、やりたい気持ちも出ず、3年間義務的に活動している。

② 新環境の選択、評価。教育への期待感や可能性

【特徴的な意見】 小中一貫や9年間の学校、また自由に選択して入学できる制度になったら良いと思います。学校活動はやはりある程度の人数が集まる必要があると思っています。説明会や話し合いの場が一度でも多くあることを要望いたします。

③ 要望「通学環境への対応（安全、安心）」

【特徴的な意見】 統合してスクールバスを出してほしいです。

(2) 対策の「必要がない」とする主な意見

① 地域における学校の役割、機能の不変性と維持

【特徴的な意見】 この町の子供達の素直さ、純粋さは、この地域で育ってきた環境の良さが、人間形成に大きな役割を担っているということを忘れてはならないと思います。もう一つ、学校が地域にあるということは、地域の皆さまの生きる力、活性化にもつながる。

② そもそも小規模校、小集団のもつ特性の認知

【特徴的な意見】 少ないなら少ないままでも良い点がいっぱいあると思います。先生の目が行き届いたり、1人1人接したりすることが充実すると思います。運動会など行事的なものを統合した形でやればいいのか？

(3) 対策の「必要がある」か「必要がない」かがわからないとする主な意見

【特徴的な意見】 子どもの成長にとって、人間関係やコミュニケーション能力形成が大切で、それは多くの人との関わりの中で育まれるので対策の必要があると思います。一方、人格形成上、子どもへの細やかな対応や指導が必要であることも事実で、少人数学校にこそメリットがある場合もあると思います。